令和４年度学校自己評価システムシート（さいたま市立大宮国際中等教育学校）　（学校番号　５０１）

目指す学校像	大宮国際中等教育学校は、よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指しています。 そのため、学校生活のあらゆる機会を通して、未来の学力を備え国際的な視野を持つ生徒の育成を目指します。

達成度	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

重点目標	１　エビデンスを意識した教育実践に取り組むとともに、教育DXを推進し、校訓から重点目標に示される生徒エージェンシーを高い次元で身に付けさせる。 ２　校内での新型コロナウイルス感染拡大を防止するとともに、たとえ感染状況が悪化しても、ICTを活用するなどして生徒の学習活動を止めない。 ３　本校の取組と魅力を積極的に発信するとともに、広く学校コミュニティからの声を受け止め、教育課程や学校運営を適切に改善する。 ４　全教職員がプライオリティを意識し、生徒・教職員をはじめ学校コミュニティ全体のWell-Beingを意図して、一丸となってIB World Schoolを作る。

※重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○前年度は保護者、生徒、保護者向け学校評価や各種取組へのアンケート、蓄積したデータの分析など、エビデンスを基にした教育活動のふりかえりを行うことができたが、学校関係者評価では、「インプットベースでの評価（実施回数○回など）が主体となっているため、実質的な効果検証とはなっていない。保護者の肯定的評価などの主観指標も大切だが、それを支える客観指標との両立が重要である。」との指摘を受けた。	・エビデンス（主観指標と客観指標）に基づく課題の確認と実践による効果検証 ・教育DXの推進による、学びの自律化と個別最適化の実現	・全国学力学習状況調査結果や普段の学習の様子や学校評価アンケートからの課題分析と実践及び次年度の指導計画作成 ・学びの個別最適化に向けたスタディサプリの導入及び教育データの蓄積と分析 ・個人面談等を用いた家庭学習の重要性や手法に係るアドバイスの実施 ・自己管理に課題を抱える生徒に対する自己管理支援	○主観指標と客観指標による課題分析結果を生かした年間指導計画による授業を実施した教職員の割合と次年度指導計画を作成した教職員の割合 ○Semesterごとのスタディサプリデータ及び教育データの分析結果のフィードバックに対する学校評価アンケートにおける保護者の肯定的な回答の割合 ○家庭学習のアドバイス実施及び自己管理支援に対する学校評価アンケートにおける保護者の肯定的な回答の割合 ○提出物支援会議の昨年度対象者数に対する今年度対象者数の50％減				
2	○コロナ禍における本校の対応等について、前年度の保護者向け学校評価やアンケート結果では、オンラインによる授業など、本校の教育活動に対して肯定的な意見が多かったが、今年度から後期課程が始まり、教職員数も授業数も増えたことから、教職員全体として、更なるICTスキルの向上を図るとともに、いつ何時でもオンラインに切り替えられる体制を整えておく必要がある。	・コロナ禍における学習活動継続のための施策の推進 ・オンライン授業に係る教員のICTスキルの向上	・学びの習慣化や学習内容の習熟・定着を図ってきたこれまでの「宿題」から、1人1台端末を活用した家庭での学びを単元やカリキュラムの一部として取り入れる「家庭学習」への一層の関連付け ・あらゆる方策による二者面談・三者面談の実施 ・オンライン授業の年間指導計画等における位置付けと学習評価の取扱いに係る検討 ・IB研修とコラボレーションした「ICTリテラシーとスキル向上に向けた教員研修」の定期的な実施	○5教科において、基礎的基本的事項の繰り返し指導を実践した教員の割合及びより理解できるようになったと肯定的に回答する生徒の割合 ○面談を希望する生徒・保護者に対するオンライン面談の実施率 ○ICT活用を意識した授業づくりに関する学校評価アンケートにおける教職員の肯定的な回答の割合 ○生徒向けに実施するICTリテラシー・スキルチェックアンケート結果によるスキル獲得に係る肯定的な回答の割合				
3	○前年度の学校評議員に加え、各界から新たに５名の有識者と２名の本校保護者を委員に迎える学校運営協議会において、３回の会議を効率的・効果的に開催し、意見を集約した上で、学校運営を改善する必要がある。 前年度はコロナ禍の中、学校説明会や保護者会の殆どをオンラインで実施したが、今後の状況を想定して、参加者数向上のため、実施方法やコンテンツ等の更なる工夫が必要である。	・学校運営協議会の効果的な運営と意見集約による学校運営の改善 ・ICTの活用による積極的な情報発信	・コロナ禍に関係なくオンライン併用会議の実施 ・授業参観、学級懇談会やPTP事業を通した、保護者との対話 ・学校の取組みや特徴的な教育活動に係る学校運営協議会の意見集約 ・学校だより、Facebook、インスタグラムを通した地域への情報発信 ・学校説明会に計画的に複数回来てもらえるための企画、立案及び実践 ・オープンキャンパス等において2種類以上の小学生向け体験授業の実施及び生徒が活躍する場を設けた学校説明会の実施	○委員の会議出席率 ○授業や行事を公開し、保護者と学校が直接対話する機会を設けていることに関する学校評価アンケートにおける保護者の肯定的な回答の割合 ○学校運営協議会における評価の実施及び生徒・保護者への共有 ○保護者連絡メールを活用した学校便りを月1回発行、ＨＰを毎週2回以上更新 ○学校説明会昨年度参加者数に対する今年度学参加者数の20％増 ○各学校説明会開催後の参加者向けアンケートにおける満足度				
4	○MYPの実践と改善、DP認定に向け、IB先進校等教育機関とオンラインを活用し、工夫しながら情報交換することができた。DPの準備以外でも各教科でIB校と積極的にオンライン教科会を行うなどしたが、DPの実践に向け、今後、更なる情報交換が必要であるとともに、教職員の資質向上に資するため校内研修を充実させることが重要である。 ○教職員の資質向上には、自己のWell-beingを大切にし、働き方改革を推進しながら、持続可能な職場を作ることが必要である。	・DP実践に向けた校内研修の充実と指導方法の工夫 ・負担軽減を意識した業務遂行と在校時間の縮減及び振替・調整・休暇取得の習慣化	・教職員の校内・校外研修、学校の課題に応じた主題を設定した計画的で組織的な研修及びキャリアに応じた適切な研修の実施 ・時間を意識した働き方の推進 ・教員負担軽減のための各種業務のデジタル化（体温記録及び朝の連絡のデジタル化、月間予定表の早期発出、サイボウズのスケジュール管理の徹底）	○月2回以上の研修実施と教職員の参加率 ○今年度の勤務時間外在校時間が月45時間未満の教職員数の割合が昨年度の教職員数の割合を上回る ○今年度の教職員の振替、調整取得率が昨年度の取得率を上回る				